

## アニリノピリミジン使用ガイドライン

作成年月日：2017年7月31日

作成者：Japan FRAC アニリノピリミジン(AP)作業部会

対象とする有効成分：

作用機構	作用点とコード	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例)	耐性リスク備考	FRACコード
D:アミノ酸および蛋白質生成	D1:メチオニン生成(提案中)	AP 殺菌剤 (アニリノピリミジン)	アニリノピリミジン	シプロジニル	ユニックス	中 耐性灰色かび病菌 と黒星病菌が発生。	9
				メパニピリム	フルピカ		

使用ガイドライン：

対象作物：りんご、なし、かんきつ、ぶどう、野菜類

### 1. *Botrytis* 病害

(1) AP 殺菌剤の1作期あたりの散布ガイドライン表

殺菌剤の総使用回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≥10
AP 殺菌剤の最多散布回数	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4
AP 混合剤の最多散布回数	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4

#### (2) 留意事項

- \* 各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。
- \* 予防的に使用する。
- \* AP 殺菌剤を連続散布しない。
- \* 作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

### 2. *Venturia* 病害

(1) AP 殺菌剤の1作期あたりの散布ガイドライン

りんご：最多2回/年

なし：最多3回/年

#### (2) 留意事項

- \* 各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。
- \* 予防的に使用する。
- \* AP 殺菌剤を連続散布しない。
- \* 作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

### 3. 注意事項

- \* 本ガイドラインは、耐性菌の発生遅延化を目的としています。
- \* 本ガイドラインは、使用する圃場において既に耐性菌が発生している病害には適用しません。

以上